

住民説明会概要

日時：令和8年1月28日（水）

19：00～20：00

場所：高齢者コミュニティーセンター

質疑応答開始（司会）

【司会】

これより質疑応答に入りたいと思います。

ご質問等ございます方は、挙手の上、マイクをお渡ししますので、指名された後にご質問をお願いいたします。どうぞよろしくをお願いいたします。

【質疑】（住民）

この諮問は、奄美市長からの諮問でございますか。それとも、有識者委員会の会長への質問という位置付けでしょうか。

【回答：事務局 久保田】

諮問は教育長から在り方検討委員会に提出されたものです。

【質疑】（住民）

アンケート調査結果を見ますと、第1位が小中学校関係の意見が多くなっているようですが、保護者の方の投票も多かったのではないかと感じております。そこでお伺いしますが、委員の構成は、小中学校関係者と、それ以外の方で、だいたい半々くらいなのでしょうか。

【回答：事務局 久保田】

委員は全員で15名おりまして、そのうち4名が教育関係者、2名が大学教授、4名がPTA会長、その他、地域の代表の方々という構成になっております。

【質疑】（住民）

私も委員として参加させていただいておりますが、これまでの議論を振り返りますと、まず大学の先生方が候補地を選定し、その後、各立場の方が一人ず

つ意見を出していくという形でした。

結果として、全員が「東城地区が望ましい」という意見で一致しました。利便性や将来性、安全性などを総合的に考えた結果でございます。

場所については、一定の結論が出たと理解しております。

今後は、

- ・通学路の安全対策
- ・国道沿いの交通安全
- ・信号機や防護柵の設置

といった点について、より具体的な議論に進んでいくべきではないかと思えます。特に、生徒数が増えることによって、交通量の多い国道を横断する機会も増えますので、防護柵の設置など、安全対策は必須だと考えています。

また、周辺には体験交流館や木工センターなどもあり、子どもたちの往来が増えることが想定されます。事故が起きてからでは遅いので、十分な配慮をお願いしたいと思えます。

以上、要望として申し上げました。

【質疑】（住民）

教えていただきたいのですが、未就学児の推移について、分かる範囲で教えてくださいませんか。

【回答：事務局 久保田】

手元に詳細な資料はございませんが、把握している範囲でご説明いたします。

現在、未就学児のいる世帯は、住用地区で5世帯、東城地区で4世帯、市で1世帯、合計で10世帯となっております。

地区別では、市校区で1人、住用校区ですけど山間に1人、役勝に2人、神屋で1人、西仲間で1人、東城の方は見里で1人、東仲間で1人、川内で1人、城で1人となっております。

【質疑】（住民）

これまでアンケート調査や委員会での議論を重ねてきましたが、統合については、ある程度方向性が見えてきたのではないかと感じています。そこでお聞きしたいのですが、仮に3校が統合された場合、学校の名称や形態はど

のようになるのでしょうか。

小中学校併設なのか、義務教育学校として一体化するのか、そのあたりの考え方について教えてください。

【回答：事務局 久保田】

現時点では、最終的な方針はまだ決定しておりません。

ただし、他自治体の事例を見ますと、検討委員会の答申を受けた翌年度に、準備委員会を立ち上げ、校名、校章、校歌、学校の形態などを検討していくケースが多くなっています。全国的には、公募による校名選定や、義務教育学校としての一体化など、さまざまな手法が取られています。今後は、

- ・通学の安全確保
- ・学校施設の修繕や整備
- ・教育環境の充実

といった点も含め、段階的に検討していくことになると考えております。

【質疑】（住民）

あらかた今回の案件につきましては、学校の統合・再編という方向に進むのではないかと理解しております。いずれにしても、3月には答申を出すということですが、いくつか質問と要望を申し上げたいと思います。

まず一点目ですが、令和8年度の施政方針の中で、このいわゆる学校再編について触れられる予定があるのかどうか、という点です。

なぜかと申しますと、開校のイベント等を考えますと、直近になってくると準備期間が4年程度になると思われるため、できるだけ早い段階での位置づけが必要ではないかと考えております。

次に、先ほど質問がありましたが、新しい学校の形態についてです。

小学校・中学校の単独校なのか、併設校なのか、あるいは昨年12月から1月にかけてテレビでも取り上げられていた、小学校と中学校を一体化した9年間の義務教育学校とするのか、という点です。

桜島の学校では、義務教育学校としてスタートし、現在は隣接地に新校舎が建設中と聞いております。このようなスタイルについても、今後新しい準備委員会等で検討されると思いますが、それぞれの形態のメリットについ

て、ぜひ説明していただきたいと思います。

それから、現状としては小学校も中学校も複式学級であり、中学校においても、免許外教科を担当している先生が複数いらっしゃるという聞いております。

例えば、数学の先生が他の教科を教えているなど、教員の負担は決して軽くない状況だと思います。少し話が長くなりますが、2012年度にOECDが発表した調査によりますと、週40時間労働を基準とした場合、日本の中学校教員の平均労働時間は約55時間、小学校教員では53時間とされており、これは明らかに過重労働の状況です。

この点からも、統廃合によって教員を集約し、労働環境を軽減することは必要ではないかと、個人的には考えております。

次に、新聞等でも拝見しましたが、東城小中学校の校舎を当面活用するという話がある一方で、私はできるだけ早く新しい校舎を建設してほしいと考えております。

すでに耐用年数等も調査されていると思いますが、統廃合に伴う再編の場合、文部科学省の特例措置があると聞いております。

また、奄美市には国の特別措置法もありますので、社会資本整備を優先的に進めることが可能ではないかと思っております。

現在、奄美大島では道路や港湾整備は一段落し、大型プロジェクトが少ない状況ですので、ぜひ早期に新校舎建設を検討していただきたいと思っております。

そのためには、庁内によるプロジェクトチームを立ち上げ、建設課や財政課と連携しながら、財政シミュレーションを含めた検討を行い、早期に長期計画に位置づけてほしいという要望です。

改めて申し上げますと、2010年10月20日の奄美豪雨災害の際には、12月に旧中学校が避難所として活用され、結果的に大きな役割を果たしました。

このことを踏まえますと、新しい学校には地域の防災拠点としての機能を備えることが重要だと思います。具体的には、調理室（厨房）シャワー室車椅子対応トイレ数日間の滞在が可能な多目的スペースこうした機能を併設した施設として整備することを検討してほしいと思っております。

次に、少し話題は変わりますが、2月8日には衆議院選挙があります。奄美は第二区に該当し、また九州選出で奄美を支援してくださっている議員の

方々もいらっしゃいます。そうした国会議員の力も活用し、奄美市として一体となって国への働きかけを行ってほしいと思います。

もう一点ですが、先ほど説明がありました諮問機関（審議会）についてです。すでに「在り方検討委員会」において外部の有識者や関係者の意見は十分に聴取されておりますので、今後は庁内で、財政計画や建築計画を具体化するワーキンググループを立ち上げて進めていくべきではないかと考えます。再度外部の意見を聞くことは、二番煎じになる可能性もあり、在り方委員会の意見を軽視することにもなりかねませんので、その点は慎重に扱っていただきたいと思います。

最後になりますが、少し手前味噌で恐縮ですが、12月1日の地元紙の市民の広場に、私も匿名で投稿しております。その中に、今回申し上げた意見の多くを記載しておりますので、ぜひ目を通していただければと思います。

また、1月5日の地元紙には、奄美市立緑ヶ丘小学校の児童の投稿が掲載されており、「若い眼差し」というタイトルで、学校統合についての率直な思いが書かれていました。

小規模校では、修学旅行やスポーツ大会に行った際に、多くの同年代・同学年の生徒と活動できる喜びがあることが語られており、できるだけ多くの仲間と学びたいという子どもたちの声が紹介されてきました。

この投稿は、緑ヶ丘小学校の5年生の児童によるものです。

以上です。よろしくお願いいたします。

【回答：事務局 久保田】

貴重なご意見をありがとうございました。

いただいたご提案については、今後の検討委員会や準備委員会の中で、十分に議論していきたいと考えております。地域の実情に合った学校の在り方、子どもたちにとって望ましい教育環境、そして防災機能を備えた施設整備についても、参考にさせていただきながら検討を進めてまいります。

本日はありがとうございました。

【質疑】（住民）

それと、もう一点あります。ちょっと忘れていたんですが、学校が変わって、一つになるということになりますと、それぞれの学校には校歌がありますよね。こういった細かい点については、今後、学校ごと、地域ごとに意見も出てくると思いますし、新しい学校という形になった際に、改めて

検討していくという理解でよろしいのか、その点をお聞きしたいと思います。

【回答：事務局 久保田】

新しい学校という形になった場合については、校名や校歌といった点も含めて、今後、準備委員会等で話し合っていくことになると思います。詳細については、これからの検討事項になると考えております。

【質疑】（住民）

統合については、基本的には賛成で、ぜひ進めていただきたいという立場です。

資料を見ますと、令和13年頃には、中学生の人数が15名から16名程度になるという見込みが示されています。現在の状況を考えますと、このままでは人数は今後も減少していくと感じています。

児童生徒数がどんどん減っていく中で、学校施設や教育環境、さまざまな課題について、これまで地域としても工夫を重ねてきたと思います。

これまで、留学制度やさまざまな取り組みを通じて、いかに子どもたちを地元呼び戻すか、また、外から呼び込むかという努力をしてきたと思います。東城地区は、15分から20分程度で通学できる場所でもありますので、「どうすれば子どもが増えるのか」という観点からも、ぜひ考えていただきたいと思います。

これは教育委員会だけの問題ではなく、行政全体として取り組むべき課題だと思います。

【質疑】（住民）

具体的な例としては、18年ほど前になりますが、「市長と語る会」が学校で開催された際、住宅建設を要望したことがあります。「住宅さえあれば、必ず住みたい人はいる」という話を当時させていただきました。

以前、東城地区の学校の校長先生方も中心となって、40代から50代の子育て世代が入居できる住宅を建てようという運動がありました。

子どもを持つ親が、「この地域に住んでみようかな」と思わなければ、生徒数は増えないと思います。

高齢者ばかりが住めるような住宅環境では、子育て世代はなかなか定住しません。ですから、若い人たち、子どもを持つ親が住める住宅を、この東城地区、住用地区にぜひ検討していただきたい、これは強い要望です。

【質疑】（住民）

以前の要望の際には、「住用には住宅が十分にあり、空き家もある。希望者がいれば、そこを手入れして住んでもらえばよい」という話もありました。

しかし、当時は汲み取り式トイレの住宅も多く、学校の先生方も含め、実際にはなかなか住みづらい環境だったと思います。

現在も、校長先生以外の教員は、地区外から通勤している状況が続いています。

以前、市の方からは、「人口に対する住宅整備の比率があり、住用地区の人口規模では新たな住宅建設は難しい」という説明も受けました。

しかし、地域振興の観点から、例外的な対応も検討してよいのではないかと思います。

【質疑】（住民）

他の市町村で新しく建てられた住宅について、「入居者がいない」という話は、あまり聞いたことがありません。

水洗トイレなど、現代的な設備を備えた住宅であれば、「住んでみよう」「子どもを連れて行ってみよう」と考える人は必ず出てくると思います。

教育委員会からも、市の方へ働きかけていただき、この問題を頭の片隅にでも置いておいていただければありがたいです。

これは要望です。

【質疑】（住民）

もう一点ですが、喜界島や大和村など、すでに統合を行った地域では、学校統合後に児童生徒数がどう推移しているのか、分かる範囲で教えていただければと思います。

【回答：事務局 久保田】

現時点では、正確な数字は把握しておりません。

【質疑】（住民）

「統合したから生徒が減る」という単純な話ではないと思います。
やはり、環境整備が一番重要だと考えています。

【質疑】（住民）

以前、県営住宅の建設予定地が変更され、別の場所に建設された経緯がありました。もし、ある程度条件の良い住宅を整備すれば、人は戻ってくるのではないかと思います。

子ども手当や各種支援策も含め、総合的に取り組まなければ、なかなか人は増えないと思います。

研修施設の誘致なども含めて、少しずつ人口が増えていく可能性はあると思います。

【回答（藤江所長）】

住用地区では、令和6年夏に「地域創生戦略」を策定しました。その中で、定住促進や子育て世代への支援についても位置づけており、地域の皆さんと意見交換をしながら、10年後の地域の姿を見据えた取り組みを進めています。住宅については、新規建設には時間がかかるため、まずは既存住宅を活用し、改修を行ったうえで希望者に提供する方策を検討しています。各集落の区長さんとも連携しながら、情報共有を進めていきたいと考えています。

定住者が増えれば、住宅問題についても検討していけると思います。

【質疑】（住民）

このような大事な学校再編の時期に、議会としての関心が十分とは言えない状況を少し残念に感じています。

議会報告会などにも、ぜひ多くの住民の皆さんに参加していただき、当局と意見交換をしてほしいと思います。

現在の学校規模は、小規模というより「超小規模」と言える状況です。

小学校も中学校も複式学級となっており、これは子どもたちにとって、決

して望ましい学習環境とは言えません。早い段階で、子どもたちが安心して学べる新しい環境を整えることが、大人の責任だと思います。

【質疑】（住民）

今後の協議が順調に進んだ場合、何年後くらいに統合が実現するのか、おおよその見通しはありますか。

【回答：事務局 久保田】

検討事項が非常に多く、進捗状況によって大きく左右されますので、現時点で具体的な年数を申し上げることはできません。

【司会】

他にご質問はよろしいでしょうか。

それでは、本日は多くの貴重なご意見をいただき、誠にありがとうございました。本日いただいたご意見につきましては、今後の検討の参考とさせていただきます。何かございましたら、地域教育課までご連絡いただければと思います。

以上をもちまして、住用町内学校再編に関する登場地区での住民説明会を終了いたします。

本日はお忙しい中、ご参加いただき、誠にありがとうございました。